

Tezukayama
Gakuin
Izumigaoka
Dousoukai

●青雲

Seiun

インタビュー

Interview

奥村幸恵

輝く人 4人からのメッセージ

恩師から 阪口先生・松下先生

新幹事大学生キャンパスライフ

同窓会室より

同窓会報告

東京同窓会REPORT

100周年記念事業報告

第6回「青雲会」ゴルフコンペ

幹事総会報告

幹事's 同窓生探訪

泉ヶ丘通信

Club Activity Report 2016

卒業生母校に帰る

新任のご挨拶

アドミッションセンターより

総会・懇親会のご案内



インタビュー Interview

奥村幸恵

cp-spazio建築設計株式会社 代表取締役 一級建築士 国際科2期生

—いちど退職した会社に復職したということですね？
はい。ご縁がありお声をいただき復職しました。特にリゾート事業部は大企業なのにアットホームでとても風通しのいい社風なんです。ここで初めて新築マンションの設計・監理に関わるのですが、今までやっていた戸建と比べると規模も大きく、さらに上級の資格が必要であることに気づきました。そこで一念発起して仕事をしながら一級建築士の勉強を始めました。

—というわけで一級建築士を取得するきっかけになったと。一級建築士の資格はただでさえ難関だと聞きますが、仕事との両立は大変だったでしょう？
文系出身だと理数系の科目は難しいですね。

—もうね、吐くと思った…高校時代に物理を習っていないので、見たことのない記号や数式がたくさんでちんぷんかんぷん。(笑) あんなにしんどかった大学受験のほうが楽だと思えるくらいでした。一年に一度、一発勝負の試験ですから。プレッシャーと表現すればいいのかな。今でこそ笑い話にできますが、泣きながら勉強をしたこともありますし、ストレスからくるプチ拒食症にもなりました。半年間はまわりとのお付き合いも全てお断りして家に引きこもり、生涯でこんなに頑張ることはもうないと思えるくらい勉強した一年でした。

—そのあと独立されて現在に至るということですね。
はい。2009年にcp-spazio建築設計株式会社を設立し、最初の3年間は大阪で、2012年からは主に東京を拠点にお仕事をさせていただいています。

—もともと建築関係の仕事がしたかったということですが、いつ頃から意識されていたのでしょうか？
家業も建設業なので、幼少の頃から住宅が好きでした。家にある建築関連の本や写真を見たり週末になるとよく見かける新聞の折込チラシの間取図を見たりしては、「ここは私のお部屋で、ここは弟のお部屋。ベッドはこう置いて…」などとひとりでおしゃべりしながら絵を描いて遊ぶのが大好きでした。いま振り返ってみるとオタクっぽいですね。(笑)

—確かに、なかなかユニークですね。でも気持ちはわかります(笑)。

—小学校の卒業文集にも「私の夢は設計士になることです」と書いてありましたから、思い入れは強かったんでしょうね。

—その思いは進路にも影響を与えましたか？
幼稚園から中学部までは住吉の帝塚山学院で学びました。高校に進学する際に建築士になりたいことを担任の先生に話し相談ののっていただいた結果、進学校である泉ヶ丘校の国際科を選びました。



クライアントの本当に求めているスタイルをコミュニケーションを通して目にみえるカタチにしていく

—高校進学の時点でそこまで考えておられたんですね。就職先は不動産業界ですが、建築とはどのように関わられたのでしょうか？

—大手デベロッパーならではの大規模な開発担当をしたことで、プロジェクト全体を総合的に広い目でみることができました。デベロッパーの仕事というのはプロデューサー的な要素が大きく、プロジェクトリーダーとなって、設計事務所やゼネコン、広告代理店など外部の人たちに指示をだしてコントロールし、それらをまとめあげてモノを完成することなんです。運営担当をしたことで、どこにどんな人材が必要か、どんな指導や育成が必要かといったことも知ることができました。これらは今の仕事を進めていくうえで貴重な経験として役立っています。

—さて、それでは現在のお仕事の内容についてお聞きいたします。一口に建築といっても様々な分野がありますが、主にどういった仕事をされていますか？

—私は自分自身の仕事を「建築デザイナー」と位置づけています。主に住宅・商業空間の内装デザインを手がけていますが、単にお部屋の設計、家具やファブリックのコーディネートをするというわけではなく、お客様とのコミュニケーションを通して、その空間にいる人たちが心地よく過ごせるために必要なものを見つけたし、ご提案をして、漠然とイメージしている理想を具体的なものに創りあげていくお手伝いをする仕事だと考えています。ちなみにcp-spazio(シーピースパジオ)はここから由来しています。

create 創る
piacevole 快適な
spazio 空間
cp-spazio
イタリア語で <快適な空間を創る>

—cp-spazioはそこから由来しているんですね!! 住宅と商業施設では、その規模や内容に大きな違いがありますが、根本のところ「人が快適に過ごす」という部分では変わらないということですね。

—個人邸では家族の意見の違いをうまく調整しながら理想に近づけていきますし、大きな商業プロジェクトではクライアントと請負業者の間に立つて両者の橋渡し役をします。そういう意味ではコンサルタントの役割を担っていますね。もとはクライアント側で仕事をしていたので、彼らの意図を理解しつつ、それを請負業者に伝えられるのも私の強みだと思っています。

—これまでに印象に残っている仕事はありますか？

—東京・四谷にある東急ステイ四谷というホテルのリニューアルのご案件が最近一番印象に残っていますね。10ヶ月にわたり、客室・廊下・フロント・エントランス・ラウンジ・中庭・ファサード(外観)など、ほぼホテル全体のプランニング、内装デザイン、照明計画、家具デザイン、小物のディスプレイ、ファブリックやアートのインテリアコーディネートなどを手がけました。

—長期プロジェクトで業務内容も多岐にわたりますね。どのように進めていくのですか？

—ホテルのリニューアルにあたっては、まず街を歩いて周辺をリサーチし、そこで得たインスピレーションをふくらませてデザインイメージやコンセプトをご提案します。現状の宿泊者の分析も行い、ターゲット設定も決めていきます。それからレイアウトに進みます。客室内は、まずはターゲット設定に基づいてベッドサイズを変更し、デスクやTV、小物などの配置を決めます。それによって生じる照明の位置変更、壁の撤去、配線や配管のやり直しなどもできますので、各室ごとに

—図面を作成し、それから内装材やファブリックなどをコーディネートします。家具はすべてオリジナルですので、部屋ごとに現調・採寸し家具工場を試作チェックも行います。中庭があるこのホテルのコンセプト<都市型リゾート>に合うよう、エントランスやラウンジなど共用部のレイアウト・デザインも同時につくりこんでいきます。

—コンセプトからプランニング・設計デザイン、資材の手配や現場の設計監理までこなしていられるようですが、きつくないですか？

—体力的には正直きついと思うことがよくあります。でもこの仕事が大好きですし、モノができあがっていく工程や、できあがったときに得られる満足感は何にも代えがたいです。大きな仕事はひとりではできませんが、これまでまわりのひとたちに支えていただきながら進めてこられました。人と人のご縁やつながりは、私にとってなくてはならない大切な宝物だと思っています。

—最後に、今後の目標や展望をお聞かせください。

—今は東京を拠点に商業空間の建築デザインを中心に仕事をさせていただいていますが、私の建築のベースは子供のときにきっかけになった<住宅建築>です。

—これからも大阪・東京、住宅・商業を問わず<快適な空間づくり>のお手伝いをさせていただきながら、お客様と共に楽しい時間を共有していきたいと思っています。



cp-spazio建築設計株式会社

設計・建築コンサルタント業
大阪府知事(口)第23173号
建築工事業
大阪府知事(般-26)第132642号

大阪市北区/東京都渋谷区
http://www.cp-spazio.jp
mail info@cp-spazio.jp



輝く人

『必要は発明の母』



井原 伸之

(普通科8期生)
株式会社フジテレビジョン
エンジニア・気象予報士

普通科8期生ですので、泉ヶ丘校を卒業してから早いもので23年、いつの間にか東京での生活のほう

が長くなりました。大学で初めて東京に出て、大都会にビビっていた頃を懐かしく思います。大学では工学部で電気系を専攻、卒業後は子供の頃からの夢だったテレビ局に就職し、主に報道や中継の技術者として、日々番組制作に携わっています。ロンドン五輪の仕事では、現地で泉ヶ丘校の同級生に

遭遇するというハプニングもあり、楽しくも刺激的な毎日をご過ごしています。テレビ局の技術者というと、カメラマンや音声、映像を切り替えるスイッチャーなどを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。私自身も、現在はニューススタジオのスイッチャーや空撮ヘリコプターのカメラマンを担当しています。ところが、このスタジオや中継車などの映像・音声システムを設計するのも、実は我々技術者の大きな仕事の一つなのです。日頃運用しているからこそ、操作しやすいように機器を上手く配置したり、必要な機能をシステムに組み込んだりするアイデアが生まれますし、さらには現場が運用しやすいように新たにシステムを開発したりすることもあります。例えば、空撮取材ヘリでは、地上からヘリへの情報伝達は無線(いわゆる声)のみで行われていましたが、揺れる機内でカメラを操作しながら情報を書き取ることは大変ですし、聞き間違いの恐れもあります。さらに、ヘリの機内では携帯やスマホの使用は法律で禁止されていますので、メールやLINEも使用できません。この問題を解決すべく、会社内のイントラPC端末からヘリへ文字情報を送信できるシステムを昨年開発しました。このシステムは、今年の映像情報メディア学会技術振興賞を受賞し、日々の空撮取材で活躍しています。まさに英語の授業で習った“Necessity is the mother of invention.”です。仕事だけでなく、色々な物事のヒントは日々の生活に埋もれているかもしれません。

『君はひとりではない』



金子 拓矢

(普通科12期生)
岸和田市議会議員

泉ヶ丘同窓会より寄稿依頼を頂いたのは今年5月の中頃だったと思います。日々の生活に押し流され、長らく思い出すことの無いまま過ぎ去った時間が、懐かしい思い出とともに蘇りました。同窓生の皆様は、お元氣になされてますでしょうか。

平成9年に卒業してから既に19年の歳月が流れましたが、自分自身は外見だけが年を重ねてしまった様な気がします。

大学卒業後、幾つかの会社で経験を積んだ後に、不動産業者として独立し経営を続けるとともに、今は岸和田市で市議会議員を務めています。幼少の頃から政治家に憧れを持っていたことや政治に関心を持つ友人や知人が多いことが背景としてある中で、実際にその中の一人が府議会議員選挙に出馬するという行動に出たことが、私の選挙挑戦への大きな一つの要因でした。今から思えば幼稚な内容だったけれど、彼とは10代の頃によく国や政治について話をし、時には一緒に選挙の手伝いをしたこともありました。その後の時の流れと共に、疎遠になっていた期間もありましたが「あの頃の気持ちを忘れてなかった」友人に対し、彼の考え方がどうこうというよりも、素直に彼の挑戦が嬉しかったのを覚えています。そして、このことが私の心のドアを大きく叩きました。数ヶ月後、彼とはステージこそ違いますが、時期を同じくする統一地方選に挑戦し互いに当選を果たしました。

残念ながら私には、引き継げる組織も政党支援も無く選挙対策すら誰も手探りであり、ご支援頂いた方々には相当なご苦労をお掛けしました。長い選挙戦を支えてくれた方々の中には勿論、「泉ヶ丘」の友人もいます。「君は一人ではない。」どなたも口にごそ出しませんが、選挙とはそういうメッセージを私に与えてくれました。だからこそ乗り越えられたのだと思います。

青臭い感じもしますが、私は今も「正義」という言葉を大切にしています。「そこに正義はあるのか」。市政に、そして自分に常に問い掛けながら、与えられた職責と任期を全うしたいと思います。また、それが応援して頂いた方々の御恩に報いることだと信じています。

私をいつも支えてくれる仲間の中に「泉ヶ丘」の友人がいる。そして、彼は私の良い時も悪い時も変わらない友人でいてくれました。そんな出会いを生んでくれた母校へ感謝の気持ちを込めて、ここに一筆啓上致します。

『写真で女性を励ましたい!』



寅貝 真知子

(国際科12期生)
写真家

私は高校の頃、ひそかに将来は心理カウンセラーになりたいという気持ちがあった。大学では心理学を専攻しました。ただ、大学時代に臨床の現場に行くことがあり、あまりにも大きな悲しみ、苦痛に触れ、今の自分にそれを受け止める器がないと挫折し、会社に就職して人事の仕事をするようになりました。そして人事の仕事から3年で写真の道に入り

10年になります。私の経歴を知り、突然のジャンル変更と思われる人も多いですが、人事の仕事と写真がつながって、今やっと、ずっとやりたかったことが、私なりのやり方で叶いつつあります。

世の中には営業や人事など様々な職種があります。就職活動で私は、自分の人生を添い遂げるような職種を必死に探していたように思います。でも今考えると本当に自分にぴったりのやりたいことには、職種など分類がない気がします。

私は人物専門の写真家で「ローレフォト」という人の気持ちや個性を表現する写真を撮っていますが、いい写真を残すことではなく、写真で人の気持ちを励ますことが目的です。私が写真をしているのは、本当に伝えたいこと、言葉では表現できないことを伝えるためです。私にとって写真が今のところ最も的確に人を励ませる手段になっています。落ち込んでいる時、人は自分のことを現状よりも悪く考えてしまいがちです。例えばそういう時、その人を励ましたくて、「もっと自信をもて!」と言ったとしても、言われた本人がすぐに自信を持ったり、元気になることは難しいです。でも写真なら、本人の現状を伝えることができます。それだけでなく、本人が描く未来や、理想まで見えるような形にできるのです。そのための研究とトライアンドエラーをしていく中で、ローレフォトという写真を考案しました。

皆さんはどんな時に自分の写真を残しますか?写真は幸せな時に撮るものだというイメージがあると思いますが、そうでない時こそ写真がプラスに作用します。

もちろん写真で治療をすることはできませんが、ローレフォトを通じて自信を持ち、元気になるって人を見て確信しました。人生はいい時もそうでない時もあります。ふと立ち返り「今の自分は本当にこれでいいんだろうか?本当の自分はどういう自分だろう?」そう思う時、これからの自分に出会うために写真は助けになれます。

こういった写真の持つ新しい可能性を伝えるため、育ってきた大阪から離れ、東京で挑戦を始めたところです。頼ってばかりいた高校時代、友達や先生が自分に寄り添い励ましてくれたこと、今度は私が人にお返しできるようにと、想っています。当時の思い出が形を変えて今の私を作る原動力になっています。



『思いやりこそ力』



鎌倉 司

(普通科18期生)
弁護士

泉ヶ丘卒業生のみなさま、こんにちは。普通科18期生の鎌倉司です。

私は、泉ヶ丘を卒業後、神戸大学法学部、立命館大学法科大学院を修了して、大阪市内で弁護士として稼働しております。

弁護士となって以来、個人・法人を問わず、民事・刑事・家事・商事と様々な案件を取り扱って参りました。そうした中

で、私が大切にしていることは、「依頼者の思いを裁判所や相手方にきちんと届ける。」ということです。そして、そのバックグラウンドには泉ヶ丘校で育まれた「思いやりこそ力」があります。

というのも、弁護士として最低限の仕事をするだけならば、法律で定められた要件を充たす事実を依頼者の方から聴き取り、それを書面化し、裁判所や相手方に提出することだけで事足りる。しかしながら、依頼者の方がわざわざ弁護士に相談に来られるほどの紛争というのは、そこに至るまでに様々な思いがあり、また歴史があります。そうした思いや歴史を無視しては、裁判官や相手方に依頼者が何に不満を抱き、わざわざ弁護士に依頼してまで問題解決しようとしているのかが伝わりません。また依頼者の方も真の納得を得ることができません。ですので、私は、依頼者の方のそうした思いや歴史を丹念に聴き取り、丁寧に文章化することで、依頼者の方の思いを裁判所や相手方にきちんと届け、裁判官や相手方を説得し、依頼者の方も納得できる真の問題解決を図るということを弁護士として大切にしています。こうしたことは個人間の紛争に限りません。企業などの法人も所詮は人の集まりであるので、法人内部の紛争や法人間の紛争においても、人々の様々な思いが交錯し、また積み重ねられた歴史があります。ですので、法人における紛争解決においても、私は依頼者の方の思いや歴史を大切にするようにしています。

とは言え、こうした作業は非常に時間がかかります。弁護士は時間を切り売りするような仕事でもあるので、必ずしも効率めとは言えません。しかしながら、そうした作業を積み重ね、紛争が解決できたとき、依頼者の方が頬を紅潮させて喜んでくれることは何事にも替え難く、弁護士冥利に尽きるものです。そうした手間のかかることを私にさせる原動力は思いやりの心です。そして、そうした思いやりの心を育ててくれたのは、緑豊かでのんびりした雰囲気泉ヶ丘校の校舎と優しい先生方、そして今でも仲良く遊んでくれる同級生たちです。

恩師から



阪口 国生 先生(理科)

卒業生の皆さん、御無沙汰しています。元気でやっていますか。私はこの3月まで31期生の担任をさせてもらい、卒業生を送り出したばかりです。1期生の担任をしてから早30年も立ってしまいました。知らぬ間に今度の誕生日で還暦を迎えます。31期生だけでなく、在学中の生徒さんの中には、卒業生の子供さんもたくさんおられて、2代に渡って泉ヶ丘校に来

てくれて、たいへんうれしく思っています。昨年には、卒業生の皆さんからの寄付もいただき、グラウンドに人工芝が張られて、みごとに鮮やかな緑の運動場が広がっています。泉ヶ丘校ができたばかりの頃は、大学の建物もなく、運動場の方向も今と縦横が逆だったような。1期生の諸君と一緒に、雑草を手で抜いていたような記憶があります。体育大会では、T君が走り高跳びで、私の身長より高いバーをかつこ良く飛んでいたのが懐かしいです。

窓の外に見える陶器山の自然豊かな木々の緑や、遠くに見える岩湧山の稜線はあの頃とちっとも変わっていません。しかし、現在はどの教室にもクーラーが完備され、勉強しやすい環境は随分と整いました。在校生は、育ちの良さを感じさせるスマートな生徒が多いですが、家庭環境に恵まれすぎているのか、ハングリー精神にあふれる野性味のある生徒

さんは少なくなったように思います。設立当初に活躍されていた先生方も多くは引退され、鬼籍に入られた方もいらっしゃいます。私ももうすぐ引退ですが、後を託すのが心配のいらぬ、若い元気のある優秀な先生方がたくさんいらっしゃるの、泉ヶ丘校もますます発展していくであろうと期待しています。先日、NHKのテレビで、「人生の終い方」という番組を見ました。さまざまな困難や病苦を抱えて、心配な誰かを後に残して旅立たねばならない人たちの話を聞いて、まさしく筆舌に尽くしがたい想いに心打たれました。私にはどうすることもできないもどかしさで苦しい限りです。現在、私がどのように人生を終えればいいのか、ますますわからなくなりました。とりあえず、ぼちぼちと、できるだけ人の役に立つように生きていこうと思っています。



松下 幸博 先生(国語)

卒業生の皆さん、お久しぶりです。それぞれの場所で、お元気にそして充実した生活を送っておられることと思います。

たしか10年ほど前に、同じこの欄でお会いしたと記憶していますが、今回は先日出席させてもらった不思議な?同窓会の話から始めましょう。それは普通科1・2・3期、国際科1・2期の合同同窓会でした。各学年30名前後の出席、先生方も20名ほど出席されて総勢130名ほどの「大」同窓会でした。3学年合同の同窓会というのは、私も初めての経験でしたが、実はこの企画は、普通科1期の同窓会が発端でした。たまたま昨年度で退職した先生2人が1期生を教えていたので、その送別会も兼ねようということになり、さらにその先生がそれぞれ普通科2期と3期の担任だったために、では交流のある国際科も含めて3学年合同でやろうということになったようです。私はその経緯を聞いてとても驚きました。と

うかほとんど感動に近いものを感じました。なぜこんな3学年にもわたる同窓会が実現できたのか?もちろん、実現に奔走してくれた幹事の皆さんのご尽力によるものであることはいうまでもありません(幹事の皆さん、ほんとうにご苦労さまでした)。私はむしろ、幹事の皆さんの無償の働きを支えるもった大きな、というかもっと根本的な何かがあったのではないかとと思うのです。

こんな学年の枠を取っ払った同窓会を企画した柔軟な発想力、またそれが反対もなくすぐに受け入れられる学年をこえた親和力、さらにはわずか1月ほどの間に500名にもぼる卒業生への連絡をはじめとした諸準備をこなす事務能力と実行力。そして卒業以来すでに30年が経過しているにもかかわらず、高い出席率を示した結束力の強さ等々…

こういったことをあれこれ考えているうちに、私の脳裏には自然に一つの言葉が浮かんできました。【泉ヶ丘のちから】、これはまさに創成期の泉ヶ丘校の基礎を築いてきた1・2・3期生のマグマのように秘められた【ちから】なのではないでしょうか。開校当初のあの、よきにつけあしきにつけ、あふれかえるような熱気の中で形づくられてきた【ちから】が現在まで脈々と生き続け、それが今回の件で姿を現したのではないのでしょうか。

皆さんもご存じだと思いますが、帝塚山学院の建学の精神は、「力の教育」でした。私がイメージする【泉ヶ丘のちから】は、学院の「力の教育」とは余り重なるところがないので、誤解を避けるために【ちから】とひらがなで書くことにします。ただ、もしかしら、学院

の「力の教育」の具体的な成果であるといっているのかもしれませんが。

ところで、『十八史略』に「創業と守成といづれか難き」という言葉があります。新しく事(国)を興すこととそれを守り発展させることは、どちらが困難か。『十八史略』では、ともに困難なことには変わりはないが、創業の難きはもう過ぎ去ったから今や守成の難きに立ち向かうという話になっています。飄って、1~3期の皆さんは、まさに泉ヶ丘校の創業の難きに耐え、それを乗り越えたからこそ、皆さんそれぞれの今があるのでしょう。ところでしかし、泉ヶ丘校の創業の難きはもう過ぎ去ったのでしょうか。私は必ずしもそうは思いません。創業の難きは守成に入っても常に、あるいは永遠に続くのではないのでしょうか。常に新しく生まれ変わり続け、常に創業の難きに立ちもどることによってはじめて、守成の難きに耐えられるのではないのでしょうか。1~3期生の皆さんの創業の困難を乗り越えてきた【泉ヶ丘のちから】は、皆さん自身の中に強く存在すると同時に、皆さんに続く卒業生にも受け継がれ、今も常に新しい創業の難きに立ち向かう【ちから】としてはたらく続けているように思います。

同窓会のことから思わず話が大きくなってしまいましたが、今回私はそれを目の当たりにし、泉ヶ丘校の最良の精神が生き続けていることを心強く思いました。願わくは、今後とも受け継がれんことを。

最後になりましたが、皆さんのご健康とご健闘を祈ります。

これが僕のある1日のスケジュールです。

6:30 START

起床

9:00 1限目

やはり大学の物理は桁違いに難しい!と書いていたのですが大丈夫!1年生という事もあって高校まで蓄積してきた知識で十分ついて行けます。僕はここで高校での学びの大切さを実感しました。(泣)

10:40 2限目

2限目は線形代数という授業で、先生は数学Cの知識を知った上で授業を進めるので僕たちは初め戸惑いを隠せませんでした。しかし先生が凄く分かりやすいので今では1番の得意科目になっています。

鳥井一真 (31期生)



12:10 お昼休憩

僕が通っている大学はおいしい学食があるのはもちろんのこと大学前通りにはラーメン街があり食に困る事はないという最高の環境が整っています。しかし食費の使いすぎには注意。(笑)

13:00 3・4限目

お昼からの授業は、2限と微積分の授業です。この授業は高校で培った知識をさらに深めることができます。自分が解いた問題は前に出てみんなに解説するという授業もあり少し大変です。

24:00 FINISH

帰宅就寝

帰ってきたらたくたく風呂入って知らない間に寝てしまいます。

18:00 サークル

授業が終わって17時半まで課題をしたり遊んだりして時間を潰し、そこから電車に乗って体育館へ。大学では念願のバスケットボールに入ることができ楽しく日々を過ごしています。しかし僕はサークルに3つも入ったので毎日凄くハードです。

16:10 授業終了

授業が終わると疲れとともに達成感がすごいです。しかし、大学生活はこれで終わりではないんです。

VOICE

大学生生活は1日の予定がパンパンに詰まっいて本当に充実した楽しい日々を過ごせます。皆さん残りの高校生活でなるべく多くの経験をして楽しみ、そして多くを学んでください。応援しています!!

CAMPUS LIFE

新幹事大学生
キャンパスライフ

入学して早くも2ヶ月が経ちました。入学する前は不安だった勉強や友人関係にも慣れてきました。ここで私のキャンパスライフを紹介させていただきます。

6:30 START

起床

高校のときよりも身支度に時間がかかるので少し早めに起きます。

7:40 出発

大学には1時間ほど着けますが、毎朝ラッシュで満員電車に乗るのが大変です。

川崎沙弥 (31期生)



9:00 1時間目開始

1コマ75分と短い代わりに空きコマが無いのでかなり毎日が充実しています。

11:40 お昼休み

お昼休みが1時間あるので友達と大学付近の美味しいレストランをほぼ毎日探しています。(笑)

22:30 FINISH

帰宅

くたくたなのでお風呂にすぐ入ってすぐ寝ます!!勉強は…しませんが。(笑)

17:30 クラブ開始

私はバドミントン部に所属しています。週3回、9時まで素敵な先輩方と楽しんでやっています。

16:50 5時間目終了

実習などもあるので定時には終わらないこともしばしば…

VOICE

大学生になると高校生ではないような楽しいことがたくさん増え、世界が大きく変わります。それぞれ理想の大学生になれるよう、残りの高校生活を楽しみながら頑張ってください。

同窓会室より 同窓会報告

1～3期生 合同同窓会

1～3期生 幹事一同

平成28年6月11日、大阪ミナミのBARKにて、普通科第1～3期、国際科第1～2期の合同同窓会を行いました。

今年、松下先生と永田先生がご定年を迎えられるとのこと、お世話になった各期の卒業生の皆さんにもお声かけさせていただき、又、米田先生や岡(貴)先生をはじめ多くの先生方が、駆けつけて下さいました。一次会は20名の先生方と100名の同窓生のご参加をいただきました。

先生方との懇談はもちろん、松下・永田両先生への記念品・花束贈呈や、当日がお誕生日だった木内先生へのサプライズデザートプレゼントの贈呈、卒業アルバムからのスライドショー上映、記念撮影までに和やかかつ賑やかに行われ、場所をルーフトップバーWooへ移しての二次会でもほぼ全員のご参加をいただき、豪華景品の抽選会や先生方の秘蔵エピソード開陳など、盛りだくさんな企画もあり、皆さんの笑顔と笑い声で満たされた同窓会でした。収支剰余金の35,202円を熊本県社会福祉協議会さまへ義援金としてお送りさせて頂きました。



中学部2期生 同窓会「小森会」

山本 淳史(普通科4期生)

朝晩はまだまだ冷え込むものの、日中の日差しは確実に春の訪れを感じられる3月19日(土)、道頓堀の料飲店にて、中学部2期同窓会「小森会」を開催いたしました。

中学部で3年間お世話になりました、恩師の小池正昭先生と森俊樹先生にご参加を頂き、同窓生19名の参加となりました。今回で3回目の小森会ですが、卒業以来27年ぶりの同窓生も数名いて、会は大いに盛り上がりしました。小池先生に乾杯のご発声をして頂いた後に、各自が近況を報告し合いました。仕事の話、家庭の話、成功話に失敗話など、卒業後の十人十色それぞれの人生ストーリーを聞いていると、あっという間の2時間半でした。

その後の二次会は、泉ヶ丘卒業の先輩が営む心齋橋のバーにて、今だから話せる中学時代の思い出話を華を咲かせました。小池先生と森先生が、同窓生達の話に、大笑いされていたのがとても印象的でした。次回は2年後に集まることを約束して散会となりました。

小池先生、森先生をはじめ、ご参加頂いた同窓生のみなさん、ありがとうございました。



永田博史先生ご定年お祝い会

大西 道隆(普通科12期生)

今年度でご定年の永田博史先生を囲んで、お祝い会を2016年1月2日に開催いたしました。普通科12期生のうち、高校3年時に永田先生が担任をされていた3組同窓生を中心に20名が集まり、永田先生との思い出や近況報告などで盛り上がりしました。永田先生はご定年後もしばらく学校に残られ数学を教えられるとのことですが、これからの活躍、ご健康を祈念しております。



帝蹴会東京

昌山 智(普通科15期生)

帝蹴会東京は、東京近郊在住のサッカー部のOB・OGによって運営している組織であり、2013年7月の発足から今年で4年目を迎えます。主な活動は、毎年夏に開催される堺ユースサッカーフェスティバルへの賛助活動です。

本年度の総会は、7月2日に渋谷にて開催し、登校長先生をはじめ総勢20名弱のメンバーが集結しました。泉ヶ丘校の近況や学生時代の思い出話など話は尽きず、時間を忘れ語り合いました。さらに、今回はOGの御結婚というおめでたい報告もあり、皆でお祝いし大盛況のうちに終わりました。

帝蹴会東京の総会は、例年20名ほどの参加頂いておりますが、もっと多くのメンバーを集め、盛り上げていかなければならないと考えております。東京近郊にお住まいのOB・OGの方がいらっしゃいましたら、ぜひともご連絡頂きたいと思っております。皆で帝蹴会東京をもっと盛り上げていきましょう!



27期生高等学校3年コースの同窓会

生田 沙綺(27期生)

2016年1月10日(日)に「パリアタワーホテル天王寺」にて2012年卒27期生高等学校3年コースの同窓会を開催させていただきました。恩師3名を加え約50人もこの同窓会に集まっておりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私たちの学年はこの4月から働き始め、それぞれが社会という新しい地に旅立ちます。そのためこんなにたくさんの卒業生が集まることは最初で最後かもしれないと思い、少し寂しい気持ちはありますが、同窓生の輝いている姿を見て非常にいい同窓会になったのでは、と思います。それぞれが、学生時代や高校卒業後、この春からのことなどの話を花を咲かせあつという間の3時間でした。

今後とも同窓生や恩師とのつながりを大切に、今回出席できなかった人を含め、またこのように集まれることを楽しみにしています。



29期生高等学校6年コース3年コースの同窓会

古川 紗恵(29期生)

平成28年1月11日(月)に「スイスホテル南海大阪」にて2014年卒29期生高等学校6年コース、3年コースの同窓会を開催させていただきました。たくさんの方にご参加いただき大変嬉しく思います。

恩師にもご参加いただき、卒業から約2年が経ちましたが、久しぶりに集まった仲間同士楽しそうに高校時代の話をしていました。今後とも帝塚山学院泉ヶ丘高等学校の恩師、同窓生とのつながりを大切に深めて参りたいと思います。



帝塚山学院 東京同窓会 REPORT

奥村 幸恵(国際科2期生)

7月10日(日)に青山ダイヤモンドホールにて、2016年度帝塚山学院東京同窓会総会が開催され、普通科1期生の松本副会長、普通科6期生の岸本広報委員長とともに出席させていただきました。大阪からは住吉校の佐野先生、松岡先生、福本先生が恩師としてご出席されました。佐野先生・松岡先生ともに私達の学年は住吉の中学部で担任をしていただき、松岡先生には泉ヶ丘校でも美術を教えていただきましたので、とても懐かしい再会となりました。

今回もたくさんの卒業生の先輩方にお会いできました。診療内科の川村則行医師による〈うつ病〉をテーマにした講演はとても興味深いものでした。宝塚出身の女優こだま愛さんの歌う〈すみれの花咲く頃〉の美声。宝塚月組の娘役トップをされていたときに何度か舞台を拝見していたので感無量でした。

今年は帝塚山学院創立100周年ということで、設立から現在までのスライド上映などもあり、みなさんとても懐かし映像を見ていらっしゃいました。

毎年こうして大阪から離れた東京でも、同じ学校という共通項でこうしてたくさんの方の交流ができ、楽しい時間が過ごせるというのは、ほんとうに帝塚山学院のよいところだと思います。

関東在住の皆さん、ぜひ来年はこの東京同窓会総会と一緒に参加しましょう。



来年は9月9日(土)に開催いたします。

[お問い合わせ] 泉ヶ丘同窓会事務局 TEL 072-293-8680

住所変更された方・不明者に関する情報は、帝塚山学院泉ヶ丘同窓会事務局までご連絡ください。また、ホームページの住所変更届けボタンをクリックし、フォームに入力するだけで簡単に手続きができます。よろしくお願いたします。

ホームページアドレス

www.tezuka-izumi.jp/

〒590-0113 堺市南区晴美台4丁2番1号 帝塚山学院泉ヶ丘同窓会事務局
TEL&FAX.072-293-8680

E-mail t.izumi@aurora.ocn.ne.jp



100周年記念事業報告

100周年特別委員会委員長 山本 淳史 (普通科4期生)

平成28年5月8日(日)快晴の新緑が輝く日に、帝塚山学院創立100周年・帝塚山学院大学開学50周年記念式典が、大阪国際会議場メインホールにて厳粛に執り行われました。当日は各界より1200名にもおおよぶ来賓と関係者が出席をし、創立100周年に相応しい盛大な式典となりました。

泉ヶ丘高等学校の管弦楽部による学院歌演奏で幕が開き、野村正朗理事長・学院長の開会の辞、豊島久真男 創立100周年事業実行委員会委員長の挨拶に続き、多くのご来賓の方々にご祝辞を頂きました。

続いて親子四代・三代の在学表彰が行われ、多くの帝塚山学院ファミリーが学校法人から表彰されました。表彰された方々の中には、泉ヶ丘卒業生もいて、嬉しくもあり大変誇りに感じた瞬間もありました。

その後は、泉ヶ丘普通科3期卒業で、親世流梅若会能楽師 山中 昶晶氏 (普通科3期生)による能楽「高砂」が披露され、場内は格調高い趣に包まれました。

津田謹輔大学学長が謝辞を述べられ後、式典の最後には、住吉校の高等学校音楽専攻生による「祝歌」の美しいハーモニーで会場はひとつになり、閉幕をしました。



式典終了後は、会場をお隣のリーガロイヤルホテルに移して、記念祝賀会が開催されました。オープニングは住吉校の中学校高等学校ギターマンドリン部による「祝歌」の演奏で始まり、野村理事長の開会の辞に続き、ご来賓の方々からご祝辞を頂きました。

鏡開きでは、泉ヶ丘同窓会会長 細川 博 (普通科3期生)も法被姿で登壇をされ、会場内に響き渡る「よいしょ」の大きなかけ声にあわせて小槌を振りおろされていました。

会の後半では、ジャズの演奏が華を添え、帝塚山学院らしい華やかな祝賀会になりました。

最後は、現在小学校校長に就かれている、我々泉ヶ丘同窓生には懐かしい谷啓介先生による、帝塚山学院愛が溢れる素晴らしい謝辞でお開きとなりました。

この祝賀会には泉ヶ丘同窓会からも、たくさんの方々が出席をされ、思い思いの100周年を楽しんでいる様子でした。

泉ヶ丘同窓会では、これに先立ち平成27年12月に、100周年のお祝いといたしまして、学校法人に200万円の寄附をいたしました。泉ヶ丘校応接室にて、登校長先生の立会いの下、細川会長から野村理事長に目録をお渡ししましたことをご報告いたします。



第6回 帝塚山学院泉ヶ丘OB(青雲会) ゴルフコンペ開催!

夏の終わりは青雲会

青雲会 第6回幹事
菊月 義哲 (普通科7期生)
成績表 (ダブルペリア)

順位	氏名	OUT	IN	グロス	HDCP	NET
優勝	犬伏 健介	38	41	79	7.2	71.8
準優勝	松田 健二	48	49	97	24.0	73.0
3位	林 美伽	43	45	88	13.2	74.8
4位	大野 真嗣	43	42	85	9.6	75.4
5位	高原 聖子	43	42	85	9.6	75.4
6位	西上 孔雄	53	49	102	26.4	75.6
7位	稲次 啓介	44	44	88	12.0	76.0
8位	内林 隆文	50	59	109	32.4	76.6
9位	船中 大輔	56	51	107	30.0	77.0
10位	角掛 潤一	44	44	88	10.8	77.2

優勝おめでとう!



ダブル台風が心配された、2015年夏、今年も、青雲会ゴルフコンペが開催されました。

8月23日(日)、「夏の終わりは青雲会!!」の合言葉で集まった精鋭は、総勢36名10組にて、聖丘カントリークラブでコンペが行われました。

台風の影響も心配されましたが、天気も良好! 程よい暑さで時より吹く風が、秋の気配さえ感じさせてくれました。ここ数年の青雲会コンペは、雨でのプレーが続いていたので、幹事としては、一安心でした。

今回、募集時点でお染みのメンバー達が、都合により欠席する中、初参戦のニューフェイス達のおかげで、例年通りの人数でコンペが行うことができました。

来年以降、お馴染みのメンバーが復帰すれば、組数を増やさなければと心配になるほどです。

それから、第6回の記念品として、学院ロゴ入りグリーンマーカーを参加賞として作成しました。意外と好評だったので、今後も企画できればと思っております。

それでは、本題のゴルフコンペですが青雲会コンペは、初心者ゴルフファーから競技志向の参加者もいるので、誰でも参加でき誰もが楽しみ、そして、誰もが優勝

を狙えるというコンセプトにより、上限男子36、女子40のハンディーキャップを上限なしのルールへと変更としました。がしかし、そこは、実力者! 犬伏さん(普10期)が東38中41、トータル79で優勝&ベストスコアを獲得! 昨年の優勝を逃したりベンジを果たしたという結果になりました。2位は松田さん(普10期)、3位は林さん(際4期)となりました。

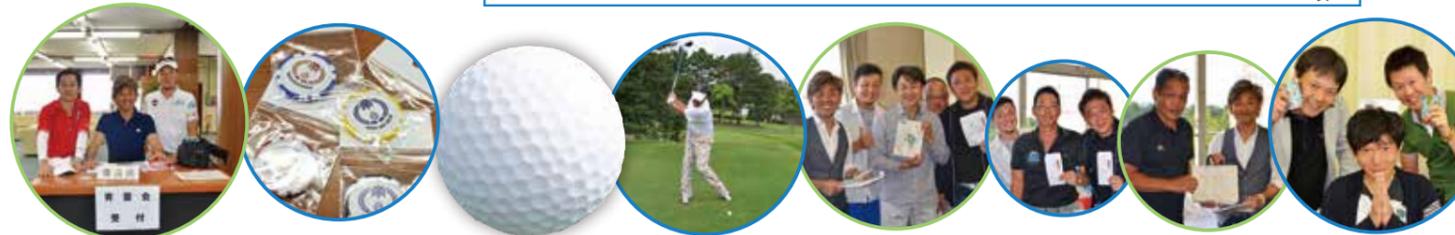
プレー後の結果発表会では、例年通り、松本さん(普4期)のすだち&うどんの差し入れあり(例年コンペの商品にさせていただいています。)、上田さん(普5期)からも、全員に参加賞として洋菓子をいただくなどのサプライズもありました。

そして会の最後には、木内先生により締め御言葉をいただき、次回の開催日を決め、第6回青雲会コンペが無事終了いたしました。

最後になりましたが、コンペ会費の残金(6,718円)は、前回繰越金(52,283円)とあわせ(59,001円)次回のコンペへ持ち越しとさせていただきます。

追伸ですが、次回第7回青雲会コンペは、2016年8月21日(日)を予定しております。同年6月末頃より同窓会ホームページなどで、告知してまいりますので、「夏の終わりは青雲会」という合言葉で、ご参加いただければと思っております。

泉ヶ丘同窓会 TEL&FAX 072-293-8680 メールアドレス t.izumi@aurora.ocn.ne.jp



幹事総会報告 副会長 松本 隆司 (普通科1期生)

平成28年5月21日(土)午後3時より、泉ヶ丘校の文化ホールにて幹事総会を開催いたしました。1期生から昨年度の卒業生である31期生まで総勢32名の幹事が出席しました。

細川会長の開会のあいさつ、新役員候補・新委員長の紹介、登校長・森副校長・有村副校長・井元教頭にこあいさつをいただいた後、議事では、決算・会計監査報告、事業計画及び予算をご承認いただき、各委員会からは昨年度の活動・今年度の活動予定が報告されました。

幹事総会後の懇親会は、新任幹事である31期生の歓迎会を兼ねて「はや 魚太郎 泉北の郷」にて行いました。恒例の新任幹事の自己紹介で大いに盛り上がり、1期生から 31期生までの幅広い年代で交流を行うことができました。

同窓会活動に参加したいという方がいらっしゃいましたら、ぜひ同窓会事務局にご連絡ください。お待ちしております。



平成27年度 会計報告

収入の部(27年度決算)	
会費	4,840,000
総会会費収入	0
寄付金収入	0
学院創立100周年寄付金	0
雑収入	440
受取利息	5,453
合計	4,845,893

支出の部(27年度決算)	
連絡協議会分担金	214,000
贈答費	490,080
通信費	146,411
東京同窓会関連費	47,400
会誌費	1,149,942
活動費	113,922
人件費	2,092,860
広報費	45,144
総会関連費	0
泉ヶ丘祭関連費	78,345
泉ヶ丘同窓会in東京関連費	0
備品消耗品費	110,168
会費返金(転学・退学・入学辞退者)	340,000
総会関連費引当繰入費	500,000
学校協力準備金引当繰入費	200,000
雑費	6,966
合計	5,535,238

泉ヶ丘校の卒業生で現在、気軽に訪ねられるお仕事をされている方を誌面でご紹介することで、職業を通じて先輩・後輩の枠も超えた交流ができればいいなと思い、取材しています。

幹事's 同窓生探訪

取材：岸本威也(普通科6期生)・細川 博(普通科3期生)・池田謙吾(普通科6期生)



青山石材店

青山 雷太

(普通科5期生)



今回お邪魔したのは、普通科5期生の青山雷太さんが和泉市で営む青山石材店です。

創業130年以上という歴史を誇り、ご先祖様が手がけられた大阪城の石垣が現存しているという由緒ある石材店です。

青山さんは泉ヶ丘校を卒業後、流通科学大学商学部流通学科へ進学し、ゼミでは企業論を学ばれました。

学生の頃から会社の買付けに度々同行してヨーロッパ各国を訪れていました。

90年代初頭、初めて訪れた中国では国際空港ですら照明が裸電球だったことにカルチャーショックを受け、それから中国に興味を持つようになりました。すでに語学の単位を取得していたにも関わらず、教



授に直談判して改めて中国語の授業を聞いていたそうで、熱の入れ方は半端ではなかったようです。

そしてついには大学卒業後、2年間北京で留学されました。覚悟はしていたつもりでしたが、到着初夜は部屋のあまりの汚さに涙されたそうです。(笑)

帰国後、そのまま入社され、以来、設計・施工・営業と社長としてご活躍されています。

石材店とひと口に言っても、その商品内容はさまざま、墓石はもちろん、仏像、灯籠、庭石をはじめ、壁材、床材、建築石材とその用途は多岐に渡っています。

時代の流れの中で、加工を中国などの海外に移す業者も増えているそうですが、青山さんの会社では現在も自社で加工できる環境を整えていらっしゃいます。例えば、墓石の名入れではサンドブラストという手法で名前を彫っています。これは、砂などの細かい粒状のもの(砥粒という)を高圧の空気で吹き付けて、文字や模様を描いていくものです。この名入れを自社で行えるのが強みだそうです。

工業製品とはいえ、素材が天然のものなので、取り扱いには難しいこともありますが、だからこそ素材選びは十分吟味し、海外で加工するものは検品を現地で一度、自社でもう一度行うなどチェックも徹底

し、他にも染みをつくらぬよう納品までは水に濡らさないなど、品質管理には気を使っています。

現在は、中国留学の経験を活かして通訳や中国からのお客様の滞在中のサポートをされたりと活動の幅を広げていらっしゃいます。

また、ラグビーを高校時代から今も続けられていて、プレイヤーとしてだけでなく、クラブチームの代表も務められるなど、仕事以外でもアクティブに活躍されています。

石の相談だけでなく、中国語圏からの突然のお客様の案内が必要なときには青山さんが力になってくださいますよ!

クランプ
クレーンにこれを吊り下げて、石をつかみます。下に下がる力が挟み込む力に変換されて持ち上がります。



青山石材店 〒594-1104 大阪府和泉市万町951 TEL 0725-55-0556 <http://aoyamasekizaiten.com>

フレッシュマーケットアオイ

内田 仁生

(普通科6期生)



続いてお邪魔したのは、普通科6期生の内田仁生さんが取締役を務めるスーパー、フレッシュマーケットアオイです。

こちらの店舗は5月20日にオープンしたばかりの、その名の通りフレッシュなお店で、取材当日もたくさんのお客様で賑わっていました。

内田さんは甲南大学経営学部を卒業後、近畿大阪銀行で8年間勤務されました。

その後、私設市場の経営や印刷業を主業務とするアオイスポートに入社してからは、市場の運営全般を担当されました。その中でも鮮魚部の運営に深く関わった経験が、現在の店舗にも活かされています。

そして5年前の2011年、アオイスポートとして初めての直営スーパーとなる「フレッシュマーケットアオイ」



フレッシュマーケットアオイ 八尾山本駅前店 TEL 072-970-5088 営業時間 9:30~22:00

の1号店を八尾市内にオープン。以来、1年に1店舗のペースで出店し、この5月に5店舗目となる山本駅前南店をオープンする運びとなりました。

お店のキャッチフレーズは、「毎日の食卓に『おいしい』をいっぱい!」で、内田さん「ウチの食材でお客様の食卓を『豊か』にしたい」「食文化の向上を目指したい」と話されていました。

お店の中を案内していただきましたが、お話しされている通り、店内はわくわくするような食材でいっぱい!

野菜は地場産の獲れたてのものをはじめ、各地より仕入れた新鮮なものが並び、果物コーナーにはなんとも言えずおいしいようなマンゴーや、スーパーで見かけるのは初めてかも?の果物の王様・ドリアンも!

「アオイおいしいセレクション」と銘打ったコーナーでは、こだわって選ばれた食材や調味料がズラリ。

そして圧巻は鮮魚コーナーの「いけす」です。時代の流れに逆らうような、手間もコストもかかるような手法をあえて採用し、活魚の新鮮なお魚をお客様にお届けしています。

もちろんいけす以外の魚も、国内各地の漁港から直送されたものが並んでいます。中には内田さん自らが買付けに行って仕入れた魚もあるんだそうです。

その他にも、シャリは自家製ですべて「手にぎり」で作っているこだわりのお寿司や、手作りのお惣菜

など、まさに「おいしいがいっぱい」になりそうな品揃えでした。

実は取材中にいけすのアジを姿造りにしてください、お土産にいただきました。自宅でおいしく食べたものは言うまでもありません。(笑)

みなさんも是非内田さんのお店で、食卓に彩りを添える一品をお買い求めになってみてください!



スペイン産の生ハムの原木もあります。切りたてを提供されているそうです!

Club Activity Report 2016

部活動報告



管弦楽部

顧問 米田 俊二

同窓生のみなさん、お元気ですか?また、管弦楽部OB・OGのみなさん、いかがお過ごしでしょうか?

管弦楽部は、2006年2月に創部し、今年で11年目を迎えています。25名という少人数で始まったクラブが、ここ数年の部員は130名前後という大所帯となっています。

さて、現在の活動状況の紹介をしますと、創部以来続けているのが、泉ヶ丘祭の昇降ホールでの演奏、2学期の終業式に文化ホールで行うクリスマスコンサートです。今や昇降ホールは、演奏時には隅から隅まで占拠しないと収まらず、文化ホールはポータブルステージを使って舞台を広げないと部員全員が舞台に乗れません。当然、人数の分だけ楽器が増え、大音量でコンサートをしています。これ以外にも、1学期中(終業式が多い)に生徒ホールを使ってミニコンサート(通称:プチコンサート)もあります。管弦楽部の規模の拡大とともに、特に宣伝しなくても、どのコンサートも大勢の方々に聴きにきて頂けるようになったことは、本当に有り難いことだと感謝しています。校内では、これ以外に、入試関連行事での演奏もしています。

校外での演奏としては、昨年の文化講演会の企画が、京都フィルハーモニー室内合奏団による演奏会でした。管弦楽部は2曲と一緒に演奏させて頂きました。部員たちにとっては、プロの演奏家を間近にリハーサルや本番を経験したことが大変良い勉強になりました。

また、記念式典の演奏もしています。3年前は堺市東文化会館で泉ヶ丘校創立30周年記念式典、今年は5月8日に、大阪国際会議場(グランキューブ)で帝塚山学院創立100周年記念式典が行われました。それぞれの式典のオープニング演奏という機会を頂きました。このように演奏を聴いて頂き、喜んでもらえることを励みに日々練習に取り組んでいます。機会がありましたら、是非校内のコンサートにお越しください。

昨今は、多くの新入部員を迎えてうれしい反面、楽器の購入が追い付かなくて苦慮することもあります。もし、ご家庭で眠っている楽器などございましたら、寄付して頂けると助かります。よろしく願いいたします。



中学男子バスケットボール部

顧問 柳川 政権

中学男子バスケットボール部は3月に行われた大阪私学大会において、2年連続大阪ベスト4という結果を得ることができました。また、今年は泉北地区選抜選手に選出される部員が出るなど、日々頑張っております。

「バスケットボールと学校生活の両立」当たり前のことですが、中学生にとってはなかなか簡単なことではありません。学校生活は部活動だけでなく、日々の授業や補習、テスト、泉ヶ丘祭や体育大会などの行事、やらなければいけないことは山ほどあります。「大好きなバスケは頑張ってるけど、あんまり好きじゃない勉強は…」放課後は部活に行きたいから、クラスの行事の係は無理!それでは困ります。「バスケを言い訳にするようなら、バスケを続ける資格なし!」この言葉を約束事として、どんなに部活が大変でも彼らは弱音を吐きません。勉強もクラスのこと一生懸命チャレンジして、その上で放課後はバスケに熱中する。それが帝泉のバスケットボール部です。

彼らの一番のライバルは、毎日一緒に練習する高校生や卒業生です。スピードも体格も経験も上の相手と毎日練習できる環境は、一貫校ならではのものです。中学1年生として入部したその日から、すぐに高校3年生のプレーを見ることが出来る。3つも4つも年上の先輩からすぐにアドバイスがもらえる。先輩のバスケに関する考え方や、学校生活に対する意欲を感じ取ることができる。そして何より、彼らが成長した時には、後輩たちに同じことをしてやる。そうやって伝統は受け継がれていきます。



卒業生 母校に 帰る



道廣 一祥 先生 (数学)
(普通科20期生)

皆さんこんにちは。普通科20期生の私が数学科教員として泉ヶ丘に着任して、今年で7年目になります。

普通科20期生という男女共学1期生でもあります。私が中学校に入学した年は、男女併学であった学校に初めて男女混合クラスができた年で、よく先生方から「この学年は特別な学年」と言われていた記憶があります。今は全クラスが男女共学となり20期生以前の先輩方からすると少し雰囲気の違った学校になっているかもしれません。そのようなことから、泉ヶ丘祭の後夜祭で行われていたフォークダンスも今では行われておりません。施設面でも新しく校舎が出来たり、昨年の100周年記念事業でグラウンドの全面芝生化になったりと私が学生だったときと比べ、少しずつ変わってきています。

一方で変わらない部分もあります。私は、現在高校2年生(3年コース)の担任をしている関係で、前日まで今年の10月に行われる研修旅行の下見で韓国に行っていました。その中で、ソウル市にある本校の30年来続く交流校の淑明女子高等学校にも行ってまいりました。この名前を聞かれて懐かしく感じられる方も多くいらっしゃるのではないでしょうか。本校の3年コースの女子生徒は、いまでも研修旅行の1年程前からペンパルとの文通をしています。この韓国研修旅行は、開校3年目から続いている行事で、昔も今も変わらない行事の1つとなっています。

学校には変わらずに続いていく大切な伝統があり、そして学校も時代の流れとともに変化していく面もあります。教員として、また卒業生としても泉ヶ丘校がより良い学校になっていくように微力ではありますが今後も努めていきたいと思っております。

内田直子さんに楽曲を提供していただきました♪

今年、創部10周年を迎える管弦楽部に、国際科7期生の内田直子さんから楽曲を提供されることになり、このほど泉ヶ丘校で贈呈が行われました。

中学生の頃から独学で作曲活動をされてきた内田さんは、これまで上海にある日本人サッカーチームのテーマソングやチャリティイベントのオープニング映像と音楽を手がけられるなど各

方面で活躍されています。

昨年から同窓会幹事を務めるようになり、何かの形で母校に貢献したいと思っていたところにこの話を知り、顧問の米田俊二先生に提供を打診、実現の運びとなりました。

ご自身のオリジナル曲を、管弦楽用にアレンジされたこのメロディーを、今後、泉ヶ丘校のイベントなどで聴くチャンスがあるかもしれませんね!



今年もやります! /

泉ヶ丘祭 9/17(土)

10:00~14:00

同窓会 cafe

カフェ B棟地下1F グループ教室6
スタート 10:00~
ラストオーダー 14:00

今年が目玉は、昨年大好評のフェイスペイント♪
ユニバーサルスタジオでされていたプロの方にしてもらえるなんて! 本格的で仕上がり、カッコいい!

数量限定 今年は何かな? お楽しみに~♥

☆スタンプラリーも同時開催

今年是我们(31期生)が幹事です!

新体制で始まります。

副校長補佐 有村 俊治

校長 登 純一郎

副校長 森 俊樹

教頭 前田 宏樹

新任のご挨拶★

教頭 井元 成浩

副校長 森 俊樹

同窓生の皆さんお元気です。

私は、本校開校の昭和58年4月より勤務を続けております。この4月には34期生にあたる高校1年生の皆さんをお迎えしました。ということは、人生の半分以上をこの帝塚山学院泉ヶ丘校とともに過ごしてきたこととなります。

本年度は4月現在で、中学高校合わせての在籍生徒数は1299名となっています。最近嬉しく思うことは、同窓生のお子さんが本校の生徒として入学してくれることです。母校をお子さんの進学先として選んでいただけたというのは、泉ヶ丘校で過ごした青春時代が楽しく有意義なものであったとお考えになっておられるからだと思います。同窓生の皆さんが、本校の保護者となって、学校

運営に対してご理解とご協力をいただけるのは、学校としてもたいへんありがたいことです。ご期待に応えるべく、さらに教育内容を充実し、発展させていきたいと思っております。

同窓生の皆さん。皆さんが在学された頃に比べて、学校のシステムが幾分変更になっている点はあると思いますが、「いい学校」であるということでは少しも変わっていません。お子さんが中学や高校に進学される際には、ぜひ本校を選択肢の一つに加えていただければと思います。



副校長補佐 有村 俊治

同窓会の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

私は、この4月より、泉ヶ丘校の併設校である帝塚山学院小学校から副校長補佐として着任いたしました。伝統があり、落ち着いた気品ある進学校に勤められますことに喜びと誇りを感じています。

生徒たちとは、入学式、始業式で出会いました。そして、授業の様子をはじめ、行事で活躍しているところも見ることができ、また生徒たちとコミュニケーションを持つことができました。生徒たちの中には、併設校の小学校出身で教え子の生徒たちもいましたが、笑顔で挨拶をし、会話をしてくれました。とても親しみがわき、また愛おしく思い、感心もいたしました。このような生徒のおおからかで明るく元気に、そしてけじめのある活動する姿は、同窓会の皆様方が築き上げた良き伝統の一つであると実感いたしました。

また、生徒たちは、緑豊かで落ち着いた雰囲気の中で、勉学はもちろんのこと、クラブ活動や行事にチャレンジできるところが、泉ヶ丘校の魅力であり学校の特徴の一つであると思っています。この魅力は、「環境が人をつくる。人が環境をつくる。」という言葉がありますように、正に、同窓会の皆様方、保護者の皆様方、生徒のみならず、そして私たち教職員が一体となって取り組んできた賜物であると思っています。

最後となりましたが、同窓会の皆様方の学校への熱い思いをしっかりと受け止め、進学実績を伸ばすことはもちろんのこと、生徒一人ひとりのあこがれを育み、実現できる進学校に発展していくように貢献してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

教頭 前田 宏樹

卒業生の皆さま、こんにちは。普通科8期の前田宏樹と申します。泉ヶ丘校の理科の教員として12年前から勤務し、昨年までの3年間は中学校の担任をしておりましたが、4月から教頭を務めることになりました。昨年までは仕事内容が違いますが、毎日戸惑うことも多いのですが、まわりの先生方のアドバイスを受けながら職務に取り組んでいます。

泉ヶ丘校は開校34年目を迎えました。校舎内の様子や学校から見える風景、行事ではクロスカントリーなどは開校当初から変わらないものですが、33年が経過すると変わったものもたくさんあります。昨年の2学期からはグランドが人工芝になり、陸上競技用としての100mの直線コースは全天候型のものになりました。中学の研修旅行では5年前から北海道でファームステイしており、今年度からは留学生を招いて英語で交流をしたりもしています。中3では職業体験や東京

研修を行うようになり、卒業生の方々の職場に行かせていただいたり、お話をうかがったりしています。これらはたくさんの卒業生のご協力のおかげで行うことができ、心より感謝しております。

また、先日は中高時代のクラスメイトが家族で学校見学に来てくれました。その友人は泉ヶ丘校での6年間はよい思い出ばかりなので、自分の子どもも泉ヶ丘校で過ごして欲しいと言ってくれました。同じように思っている卒業生のおかげで、現在、数多くのお子様が泉ヶ丘校に通われています。これは先生方の熱心な指導、アットホームな校風だからであり、これこそが泉ヶ丘校の伝統であるといえます。今後もこの伝統を受け継ぎ、泉ヶ丘校がさらに発展できるよう微力ながら役に立ちたいと思っております。卒業生の皆さま、ぜひ一度泉ヶ丘校の様子を見に来てください。

アドミッションセンターより

平成29(2017)年度 入試のお知らせ

【中学入試関連行事の日程】

※ 下記の入試関連行事は、本校にて開催します。詳細はHPでご確認ください。

入試関連	入試説明会	プレテスト	プレテスト個別懇談会 教科別アドバイス会
日程	10月1日(土) 14:00~	11月3日(木・祝) 8:20~	11月13日(日) 13:30~
備考	児童・保護者対象の説明会です。 〔予約不要〕	小学6年生対象 〔事前要予約〕 保護者対象の入試説明会も同時開催。	プレテスト参加者対象 〔事前要予約〕

【中学入試について】

平成29(2017)年度より
Web出願受付となります。

■ 募集人数・日程

試験日	1次A入試	1次B入試	2次入試
	1月14日(土)	1月14日(土)午後	1月15日(日)午後
募集人員(男女)	特別選抜・医進・特進 約140名		特別選抜・医進・特進 約20名
	特別選抜(約20名)・医進(約40名)・特進(約100名)		

● 特待制度

特待生/入学金の全額と授業料の全額を免除します。
奨励生/入学金の全額と授業料の半額相当額を給付します。

【高校入試関連行事の日程】

※ 下記の入試関連行事は、本校にて開催します。詳細はHPでご確認ください。

入試関連	体験入学	学校説明会	入試説明会
日程	10月15日(土) 10月29日(土) 13:30~	10月15日(土) 10月29日(土) 15:00~	12月10日(日) 14:00~
備考	中学3年生対象 〔事前要予約〕	生徒・保護者対象 〔予約不要〕	生徒・保護者対象 〔予約不要〕

【高校入試について】

平成29(2017)年度より
募集コースが変わります。

■ 募集人数・日程

試験日	1次入試	帰国生入試
	2月10日(金) 学科 2月11日(土・祝) 面接(生徒のみ)	1月23日(月) 学科・面接 (保護者同伴)
募集人員(男女)	普通科 S 特進コース 約30名 特進コース 約70名 計 約100名	普通科 S 特進コース 特進コース ※(計約5名)

※ 帰国生入試の約5名は募集人数の約100名に含まれています。

● 特待制度

学業優秀で、中学校長の推薦を受けた受験生には、奨学金の給付と入学金免除の制度があります。

2016.07
Debut

受験生向け公式アプリが登場。

入試に関する最新情報を手軽に素早くチェックできます

公式アプリをスマートフォンやタブレット端末にダウンロードしておくだけで、入試に関する最新情報を手軽に素早くご覧いただけます。また、入試イベントの申し込みやWeb出願、ルート案内など便利な機能もついています。ぜひ泉ヶ丘校公式アプリをご活用ください!

ダウンロードはこちら
帝塚山学院泉ヶ丘

検索



iOS



Android

- 入試イベントの申し込み
- 中学・高校入試のWeb出願
- プッシュ通知でNEWSをお届け
- 現在地からのルート案内

学校案内や募集要項などの資料請求、入試に関するお問い合わせは泉ヶ丘校アドミッションセンターまでお願いいたします。連絡先は下記の通りです。

アドミッションセンター TEL.072-293-1416 FAX.072-293-1417 E-mail nyusi@tezuka-i-h.jp

国際交流より

ホストファミリーを募集しています

泉ヶ丘校開校以来30年に渡り、AFS・YFU・AYUSA等の留学派遣団体を通じて、原則として毎年英語圏から1名、非英語圏から1名の留学生の受け入れを行ってまいりました。留学生が言葉や文化の違いを乗り越え頑張る姿は、本校の生徒たちにとって大きな刺激となっております。しかし、近年これらの団体はホストファミリーを見つけることに大変苦労している状態で、本校では受け入れ家庭の確保に協力しております。ホストファミリーにご興味のある方は、国際交流までお気軽にお問い合わせください。



会長のご挨拶

帝塚山学院は今年、創立100周年を迎えました。そして、平成3(1991)年に発足した泉ヶ丘同窓会は今年で25才。まだまだ若い同窓会ですが、それでも四半世紀の歴史を積み上げてきたわけです。同窓生も7,500名を超えるまでに成長しています。お仕事や保護者会、そしてSNSなどで思いがけず同窓生とつながる機会も多いのではないのでしょうか？

11月6日に、「総会・懇親会」が開催されます。皆様には是非ご参加いただき、たくさんの同窓生と旧交を温めていただければ幸いです。今後とも、同窓会へのご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



帝塚山学院泉ヶ丘同窓会
会長
細川 博 (普通科3期生)

お知らせ



谷 啓介先生

この度、前副校長の谷 啓介先生が、帝塚山学院小学校 校長に就任いたしました。この場をお借りして、ご報告させていただきます。

異業種交流会

船中 大輔 (普通科8期生)

4月に卒業生による初めての異業種交流会が行われました。1期生から28期生まで30余名の多種多様な業界の参加でした。名刺交換会をさせてもらい交流会はすぐに盛り上がりました。

2次会は「くろしお」に場所を移し、仕事の話、先生の話、同級生の話がされていました。自分の仕事の業界以外の方とお話する、また同窓生のつながりの中でいろいろヒントになることや新しい発見があったみたいです。

また企画したいと思っております。



みなさんも登録してみませんか？

同窓生の活躍を、お勤め先や経営されている会社名などをWeb上で掲載し、ご紹介いたします。新たな交流の場として、つながりや発見、新しいビジネスモデルがここから生まれるかも…!? ホームページを活気あふれるものにしていくためにも、みなさんのご登録を待っています！

1 TOPページ右下の「同窓生の活躍」というバナーをクリック。そこに一覧が掲載されています。

2 一番下の掲載方法とお申し込みをクリックして、フォームに必要事項を入力してください。



同級生の活躍ページ

掲載期間は10月から翌年9月までです。お申込及び更新期間は毎年7月頃を予定しております。掲載の方には、同窓会協力金(2口以上、1口2,000円)へのご協力をお願いしております。掲載に際しては、簡単な審査がございます。ご掲載のご希望に添えない場合もございますので、ご確認ください。掲載内容により、文字数の関係上調整を行う場合がございます。ご確認ください。

ホームページアドレス
<http://www.tezuka-izumi.jp/>
〒590-0113 堺市南区晴美台4丁2-1 帝塚山学院泉ヶ丘同窓会事務局
TEL&FAX.072-293-8680
E-mail t.izumi@aurora.ocn.ne.jp

訃報 国際科2期生 村尾 順子様 (旧姓水田) 心よりご冥福をお祈り致します。

表紙の紹介

建物3階に中庭があり開放感のある滞り型ホテル(東急ステイ四谷)。人工植栽をすべてとりぞき、レンガでつくった花壇に本物の植物を植え、デッキや水盤を設けるなどリニューアル。都会の日常から離れ、束の間の時間を自然の空気を感じながらゆったりとすごしていただける都会のオアシスです。



<http://www.tokyustay.co.jp>

編集後記



広報委員長
岸本威也 (普通科6期生)

みなさんこんにちは! 早いものでもう1年。青雲の発行時期になりました。今年の上半年は帝塚山学院の100周年記念行事があったり、先輩方の合同同窓会の司会進行を仰せつかったりと、いつもにも増して「帝塚山」というものを意識する出来事がありました。今年はまた11月に泉ヶ丘校全体の同窓会があります。少しお時間を割いていただいて、「こころのふるさと」の恩師や同窓生に是非会いに来てください。お目にかかれるのを楽しみにしています!



第9回 帝塚山学院泉ヶ丘中学校高等学校

同窓会総会・懇親会

同級生はもちろん、懐かしい恩師や先生方、先輩、後輩とも楽しく歓談できるのが、総会・懇親会の魅力!



恒例の大抽選会也大盛況!



2016年
日時 **11/6日** 締め切り 10月6日(月)
12:00~15:00(受付 11:30)
会場 スイスホテル南海大阪 8F 浪華
会費 一般[1期~25期] 8,000円
学生[25期~31期] (2011年卒~2016年卒) .. 3,000円
同伴者(泉ヶ丘卒ではない方) 9,000円
お子様3歳以上(要申込み) 2,000円

大抽選大会の
あっと驚く景品を
大募集しています!

景品は前日までにホテルか同窓会室に送付ください。その際の送料は同窓会で負担いたします。お問合せは上記帝塚山学院泉ヶ丘同窓会までご連絡下さい。

もらって
うれしい!
景品



キッズルームを
用意しています。

生後3か月から小学校6年生までのお子様を預けていただけます。イベントベビーシッターが出張でまいりまして、無料でご利用いただけます。同窓生との楽しい時間をサポートしていただけますよ。

小さな
お子様がいても
安心

独身同窓生イベント
企画しています。

同級生、先輩、となりの同窓生と独身者のかたのイベントで出会いを探してみませんか? 異業種交流会、独身者限定懇親会也大盛況でした。もしかしら運命の出会いがあるかもしれませんよ

出会いが
ないという人に
朗報

申込み
方法

E-mail・電話・FAX

Facebookでも申込可能になりました!

お問合わせ 帝塚山学院泉ヶ丘同窓会

Tel/Fax 072-293-8680

E-mail t.izumi@aurora.ocn.ne.jp





泉ヶ丘讃歌

庄野 英一 作詞
さとう 宗幸 作曲
中田 文恵 編曲

泉ヶ丘に 光かがよひ
眉あげて 仰ぐ青雲
友どちよ
あこがれは 遠く高く
心はずみ みなぎる力
われらたくまし

泉ヶ丘に 風は薫らく
眉あげて 仰ぐ彩雲
友どちよ
夢の輪は 遠く広く
汗光り みなぎる力
われらたくまし

発行年/平成28年09月
編集・発行 帝塚山学院 泉ヶ丘同窓会
制作・印刷 株式会社シンカコミュニケーションズ

〒590-0113 堺市南区晴美台4丁2-1
〒598-0009 河内長野市木戸西町1-5-7

TEL・FAX.072(293)8680
TEL.0721(52)5934

HP: <http://www.tezuka-izumi.jp/>
HP: http://www.cinca.jp

キリトリ線

総会申込書

FAX送信票

フリガナ		フリガナ		男・女
お名前		旧姓		
同伴者		お子様		年齢 歳
コース	普通科・国際科 () 期生	会員番号		
ご住所	〒 -			
		Eメール		
TEL/携帯	TEL. ()			
	携帯. ()			

FAX送信先 072-293-8680